



まち配BOX

『モノを受取る場・使う場』による文化拠点の提案

00 PROGRAM

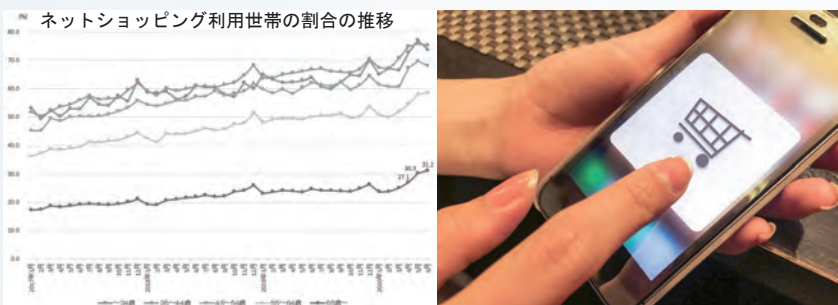
『モノを受取る場・使う場』文化へ

口池袋文化『モノ・体験を買う場』-セゾン文化



池袋では、文化的インフラを築いたセゾン文化があった。セゾン文化はヒト・モノの集積によって『モノ・体験を買う場』が文化となっていた。高級ブランドには手が届かなくても、センスが優れていて何とか手が届きそうなD Cブランドを強くブッシュする等、LOCAL CULTUREとHIGH CULTUREの断絶を埋める役割を果たした。このように、池袋におけるHIGH & LOCAL CULTUREをセゾン文化は築いてきたと言える。

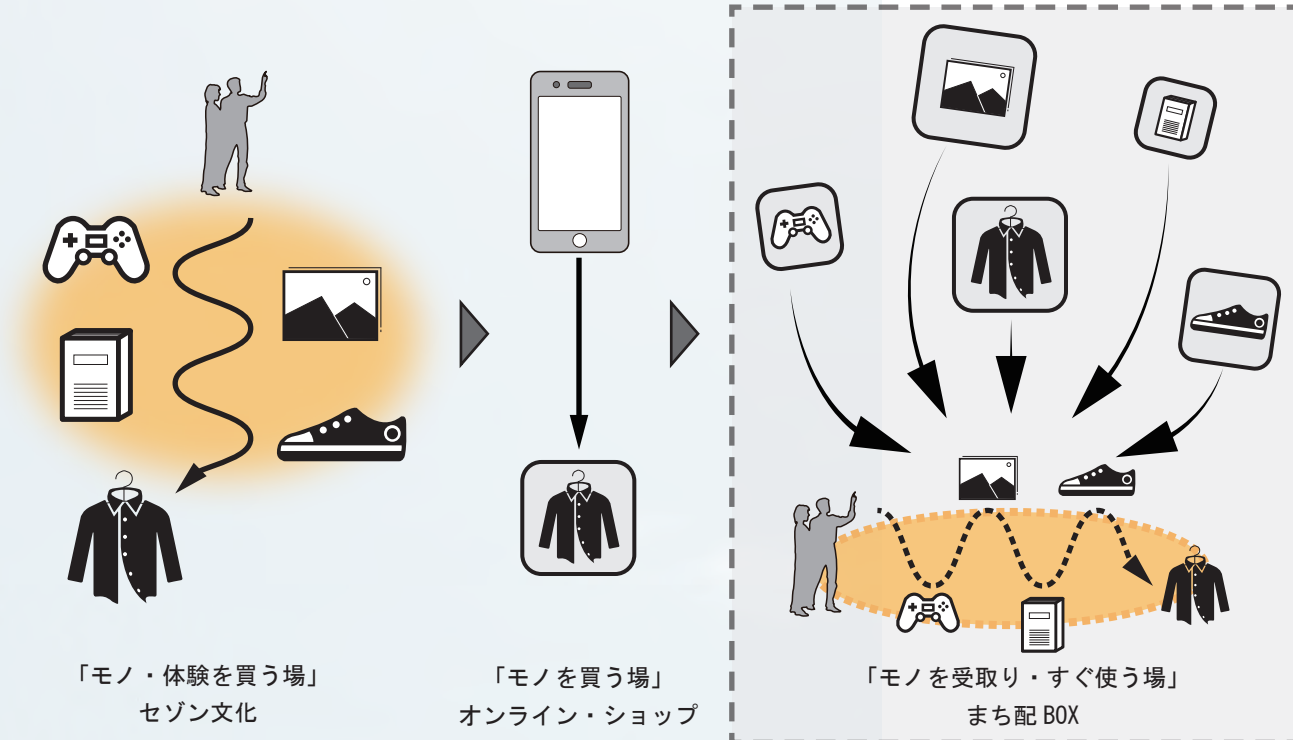
口『モノを買う場』-オンラインショッピング



新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、オンラインショッピングが大幅に普及した。オンラインショッピングはオスメ商品等の関連したモノを容易に見ることができると一方で、店舗の買い物の様に、モノとの偶発的な出会い・体験の場に触れることが少なくなっている。更に、宅配時の不在や過剰包装といったオンラインショッピングならではの課題も深刻化していることが現状である。

口『モノを受取る場・使う場』-まち配BOX

まち配BOX=『モノを受取る場 (Delivery BOX) ・使う場 (Play BOX)』

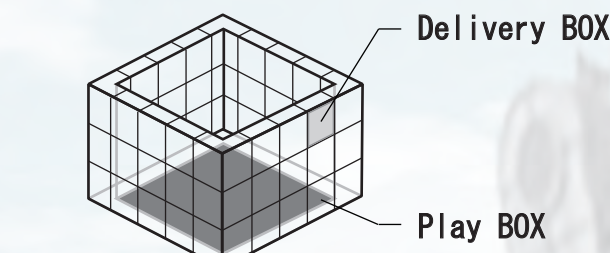


そこで、池袋のセゾン文化を踏襲したオンラインショップ型の買い物の形として、まち配BOXを計画する。様々な人々がオンラインショッピングで購入したコンテンツを集積させ、それらをすぐ利用できる場を提案することで、モノとの偶発的な出会いが生まれるのではないかと、セゾン文化のモノを『買う・体験する』形からオンラインショップ型の『受取り・すぐ使う』形にすることで池袋の新しいHIGH & LOCAL CULTUREを創出する。

01 FOAM

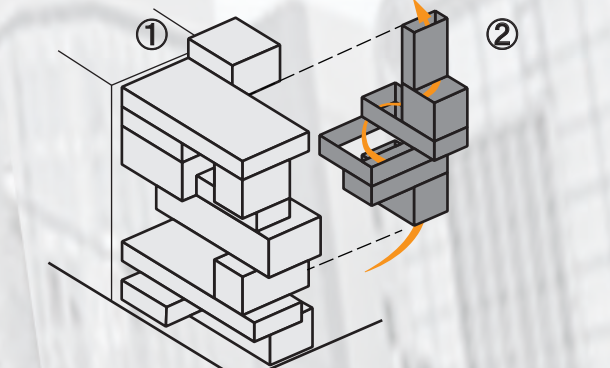
積層する「まち配BOX」

1. Delivery BOX・Play BOXの関係



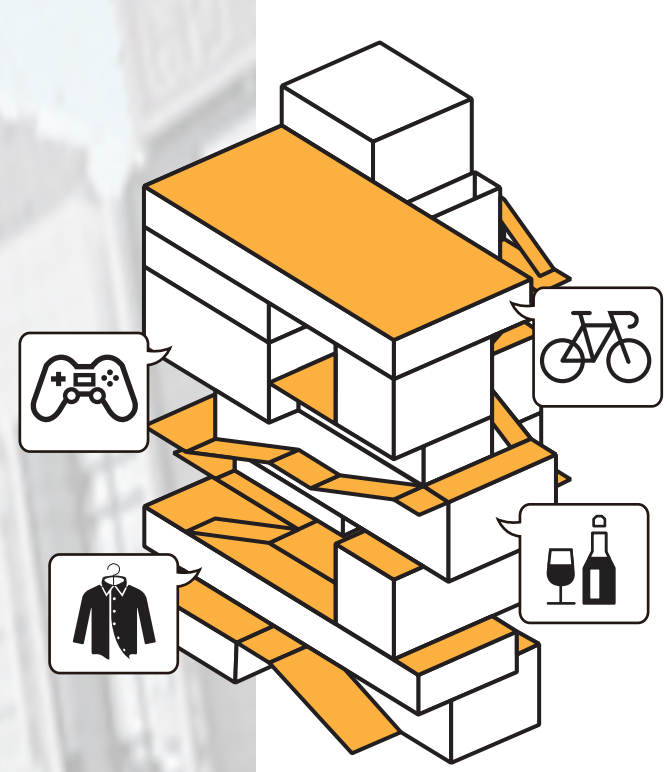
『モノを受取る場』としてのDelivery BOXのユニットが積層され、『モノを使う場』であるPlay BOXに付随する様にまち配BOXを構成する。

2. ドローンとまち配BOXの関係



まち配BOXは①外側からドローンで配達するBOXと②内側からドローンで配達するBOXで構成される。②の内側はドローンの整備場も併設されている。

3. まち配BOXとビジー動線

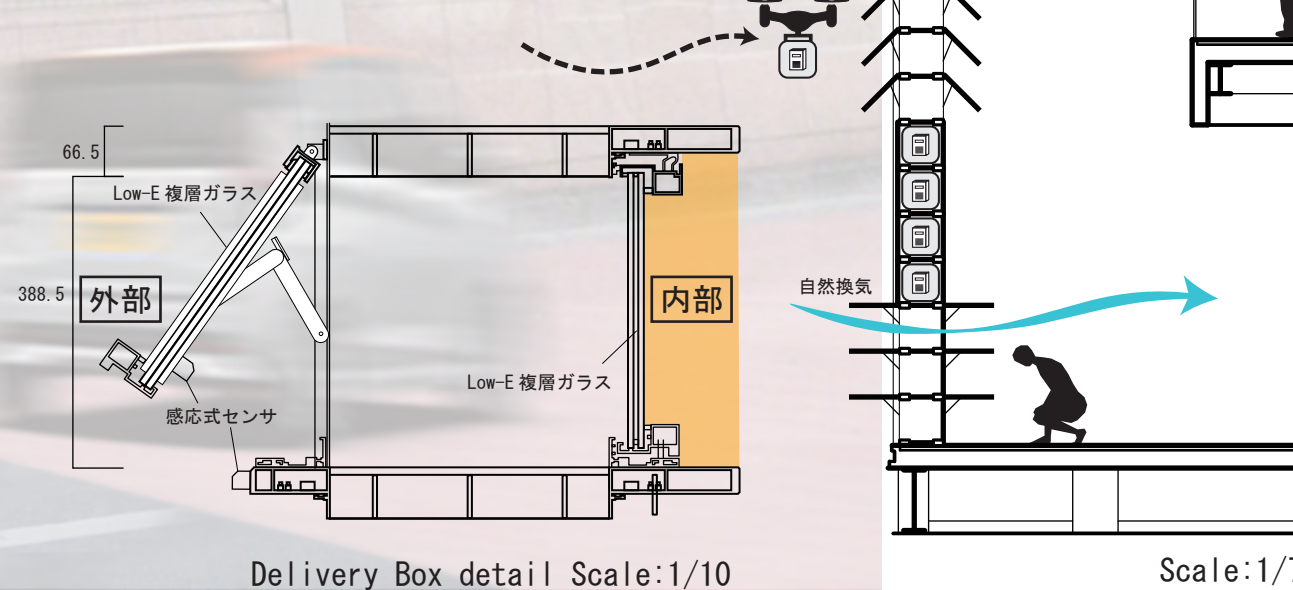


積層するまち配BOXにビジーの動線が絡むことで、オンラインショッピングではなくなっていたモノとの偶発的な出会いを生み出す。

02 SYSTEM

開閉する「まち配BOX」ファサード

「まち配BOX」は455mmスケール(1/4間)を基準として構成している。モノのスケールによって「受取る場 (Delivery BOX)」と「使う場 (Play BOX)」のスケール操作を行なっている。「まち配BOX」の開閉部はモノが入っていない時は開いており、自然換気を促す。ドローンによりモノが届けられた時は、感知式センサにより自動で閉まる。また、室内気温が上がる時、開口部が自動で閉まり、室内の気温を調整する役割を果たす。更に、宅配されたモノを日射から守り、室内の気温を一定に保つため、内外の両面にLow-E複層ガラスを採用している。



03 SCHEME

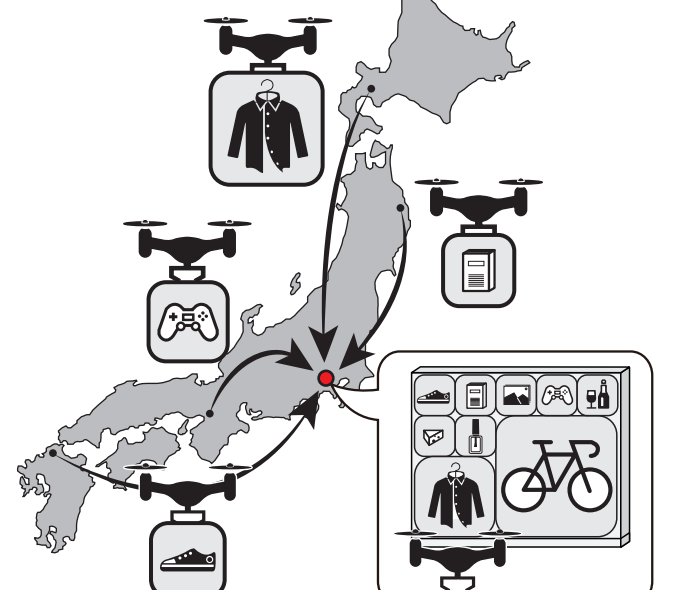
「まち配BOX」を中心とした「受取る場・使う場」

口可視化されるまち配BOX



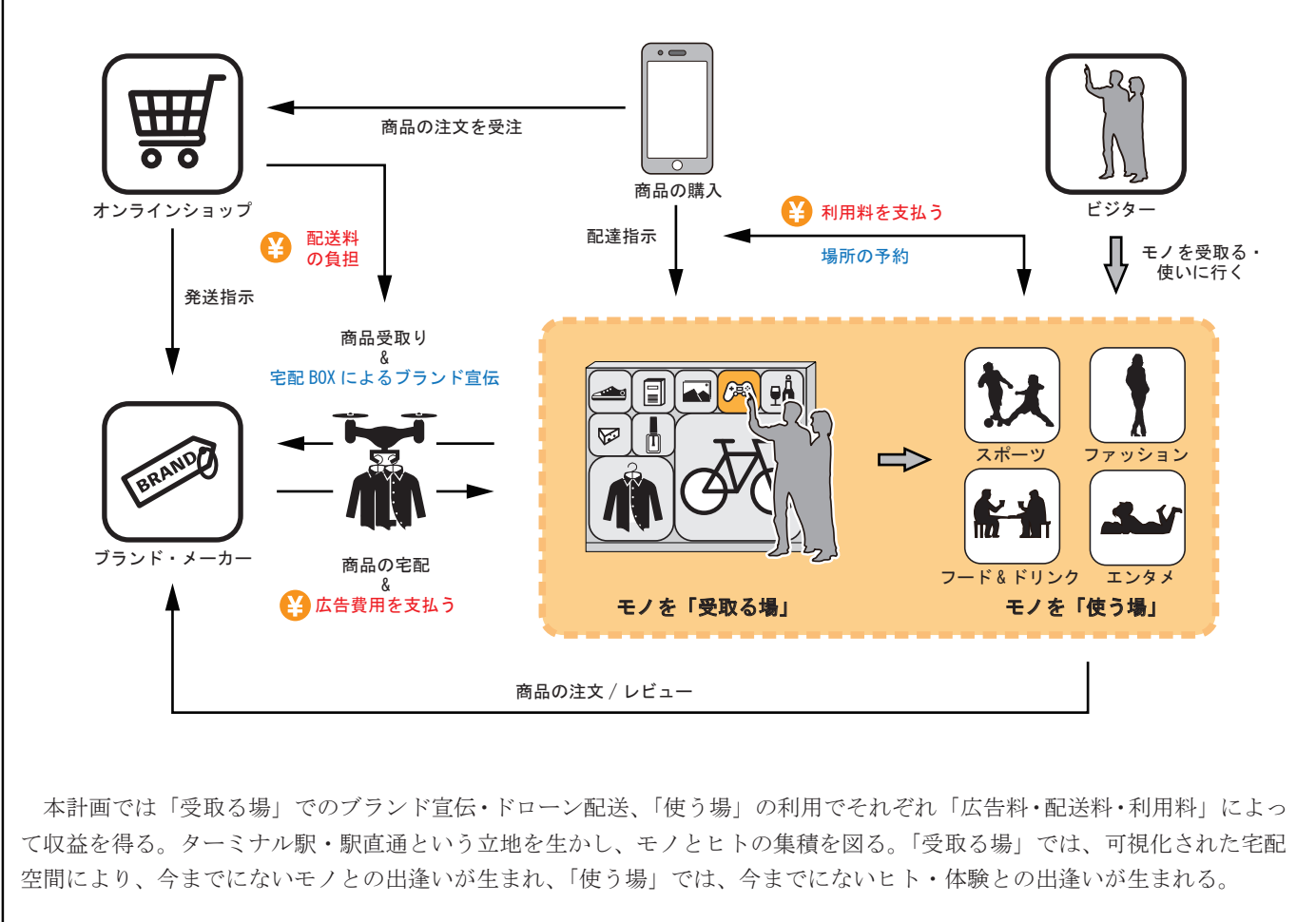
対面をせずに荷物を受け取ることができ、不在時にも受取可能なため利便性が高いサービス「置き配」。利便性が高い一方で、「置き配」を指定した商品の盗難被害や宅配ボックスの不足が問題視されている。そこで、ビジーが見られる「Delivery BOX・Play BOX」にすることで、「みんなが購入したモノがディスプレイ」となる。このように、安全にモノを保管しながら、ビジーにとって新しい「モノとの出逢い方」を提案する。

口ドローンによる「まち配」



近年、IoTの発達・物流市場の拡大に伴い、ドローンを活用した物流システムの構築が2021年より始まっている。本計画では、オンラインショップで購入したモノがドローンによって集積される。この場が、ドローン宅配の基地となっている為、直接物流が可能になり、物流の商業化をはかることができる。これにより、「流通コスト削減」と同時に、「過剰包装を減らす」といった環境負荷低減にも繋がる物流システムとなる。

口「まち配BOX」を中心とした収益循環



04 COMPOSITION

「受取る場」と「使う場」

「まち配BOX」はPlay BOXの用途に対応して、Delivery BOXが備えつけられる。また、モノのスケールに応じて、Delivery BOXのスケールも変化していき、多様な屋内空間が生まれる。ビジーの動線はまち配BOXに絡まっていき、BOX内に入らずとも、ボラスなBOXの内部の様子を楽しむことができる。この様に、「まち配BOX」の「Delivery BOX」部と「Play BOX」部、またビジーの動線が上手く絡まり合うことで、オンラインショッピング型の新しいモノとの出会い・文化拠点となることを想定している。

